

2019年7月16日(第2回)
2018年度JLA中堅職員ステップアップ研修(2)
領域:資料・情報との出会いを創出する

電子資料の動向

講師 間部 豊(帝京平成大学)

1

1. はじめに

【自己紹介】

間部 豊(まべ ゆたか)
主な研究分野 レファレンスサービス, 情報検索, 電子書籍

1997年4月 埼玉県教育委員会(埼玉県立熊谷・川越・浦和図書館 司書)
2008年4月 北陸学院大学短期大学部コミュニティ文化学科 講師・准教授
2013年4月 帝京平成大学現代ライフ学部経営マネジメント学科 講師・准教授(現在に至る)

2019/7/16 2

科目のねらい

1. 電子資料の特性と最近の動向
2. 電子資料を図書館で利用するに当たって求められる知識や情報の収集方法
3. 電子資料の契約方法, アクセス方法等を学び, 効果的な活用方法を考える。

2019/7/16 3

本日の目標

1. 電子資料の特性を知り, そのメリットを理解する
2. 電子資料の生産・流通の実際から収集・契約までを理解する
3. 電子資料をどのように活用していくか考える

2019/7/16 4

本日の流れ

1. はじめに
2. 電子資料について【全体傾向】
3. 電子資料の特性と動向
4. 電子書籍の特性と動向
5. 電子資料を図書館で活用するために

2019/7/16 5

受講生の皆さんへ

• 自己紹介をお願いします

1. 所属
2. お名前
3. 図書館における主担当業務
4. 一言

2019/7/16 6

2. 電子資料について【全体傾向】

(1)電子資料の種類

パッケージ系

- CD-ROM/DVD-ROM

ネットワーク系

- オンラインデータベース
- 電子ジャーナル・・・有償(ベンダー)/無償(オープンアクセス)
- デジタルアーカイブ
- デジタルコンテンツ
- 電子書籍

2019/7/16

7

2. 電子資料について【全体傾向】

【事前課題から】受講者の所属館の電子資料提供状況(全10館)

パッケージ系メディア	提供館数
単体資料	4
資料に付属したもの	3
ネットワーク系メディア	提供館数
オンラインデータベース	8
デジタルアーカイブ	8
電子書籍サービス	2

2019/7/16

8

2. 電子資料について【全体傾向】

(2)参加者の所属館における傾向

- ある程度多岐の電子資料を提供をしているが...
- 図書館間の差異がある
- 利用実態は低調

2019/7/16

9

2. 電子資料について【全体傾向】

- 電子資料の特性(利点)を知り、「図書館職員」が率先して使っていくことが必要ではないか
- 「使える情報源」を把握することで、利用者に対して情報源として活用していくことができる

2019/7/16

10

3. 電子資料の特性と動向

パッケージ系資料について

2019/7/16

11

3. 電子資料の特性と動向 パッケージ系資料

(1)出版状況

- ① 単体資料
 - 近年は出版点数も減少, 辞・事典類についても更新頻度を考慮してオンラインデータベースへの転換が進む。
- ② 印刷資料の付属資料
 - 図書, 雑誌に添付されるケースは多くある。

2019/7/16

12

3. 電子資料の特性と動向 パッケージ系資料

(2) 図書館における収集

- 物理的メディアを有している = 印刷資料と同様の扱い
- 図書館資料として **消耗品費・備品購入費** で収集・保存できる

使用契約によるオンラインデータベースと異なり、資料として残せる

2019/7/16

33

3. 電子資料の特性と動向 パッケージ系資料

(3) 図書館資料としての特性

検索性・情報集密度について、印刷資料より優れているもの...

- 情報が更新されない
- 複数の物理的メディアに分割されることも(多巻ものなど)
= **検索性は今一つ**
- 管理が複雑(利用ソフトのインストール, 出納など)

単体資料を積極的に収集する必要性に乏しい

2019/7/16

34

3. 電子資料の特性と動向 パッケージ系資料

(5) パッケージ資料の活用

(例) 他に代替のない **地域新聞の縮刷版** として保存・提供

- ① 新聞原紙の保存は収蔵スペースを取る, 経年劣化しやすい
- ② マイクロフィルム化するよりも閲覧性, 検索性に優れる
- ③ レファレンスサービスへの活用
↳ スキャニングによる探索を求められるとき, 有効

* 事前に別の媒体で **検索対象記事の掲載時期を特定** しておけば, 比較的容易に求められる情報に到達できる!

2019/7/16

35

3. 電子資料の特性と動向

ネットワーク系資料について

2019/7/16

36

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (1) 特徴

① 長所

- **検索性** に優れる
- 情報が常に更新され, **最新の情報** を得られる
- 検索結果の引用・出力が可能であることが多い
- 一次情報の提供結びつくことも多い
(データベース内での提供, リンクリゾルバなど)

パッケージ系資料の弱点を補っている

2019/7/16

37

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (1) 特徴

② 短所

- データベース等の **アクセス権** を取得し提供する。
- 図書館資料として **収集することはできない**。
(予算費目は「使用料および使賃料」に相当)
- 情報の **永続性** が確実に担保されていない

保存という観点ではパッケージ系資料との併用が求められる

2019/7/16

38

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料

オンラインデータベース・電子ジャーナルについて

2019/7/16

19

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

①動向

- **検索性**に優れ、**最新情報を入手可能**であることから図書館で提供すべき電子資料の一つ
- **保存性**はないが・・・
→定番となるデータベースの稼働率は高く、安定して提供されている
- **永続性**は・・・
→使用契約であるため、より優れたデータベースへの切り替えも可能

2019/7/16

20

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

②生産・流通

- 出版社ないし取次店を経由して提供される

③図書館における利用

- 使用契約を結び提供
- 通常は年度更新

2019/7/16

21

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

④オンラインデータベースの種類と特徴(文献探索・文献提供系)

新聞記事系

- 新聞記事索引と記事本文提供を兼ねており利便性が高い。
- 企業情報等の関連コンテンツが充実しているものもある。

2019/7/16

22

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

④オンラインデータベースの種類と特徴(文献探索・文献提供系)

雑誌記事系

- 雑誌記事索引機能に加え、抄録や本文が提供されるものもあり。

「一次情報へのアクセス性」

2019/7/16

23

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

④オンラインデータベースの種類と特徴(文献探索・文献提供系)

法情報系・・・D1-law.com, Westlaw Japan

- 法律条文
- 法律雑誌記事索引
- 判例検索

などの法情報をまとめて入手可能

2019/7/16

24

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

④オンラインデータベースの種類と特徴(文献探索・文献提供系) ビジネス系・・・市場情報評価ナビ MieNa(ミーナ) など

- ・ビジネス支援サービスなどで活用

2019/7/16

25

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

④オンラインデータベースの種類と特徴(文献探索・文献提供系)

官報情報検索サービス

- ・「官報」=国の公報
- ・索引として用いるほか、
本文がPDFで提供される。

2019/7/16

26

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

④オンラインデータベースの種類と特徴(文献探索・文献提供系)

- ・いずれも**索引**としての機能が有効
=具体的な「記事の位置」を確認できる
- ・加えて**一次情報へのアクセスパス**が提供されるメリットが大きい。
=新聞記事DB・・・記事本文が読める
雑誌記事索引・・・抄録の掲載や、リンクリゾルバからの本文提供
法・ビジネス系・一次情報が直接提供される

2019/7/16

27

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

⑤オンラインデータベースの種類と特徴(事実探索・情報提供系)

辞事典類・・・Japan knowledge, ポブラディアネットなど

- ・複数の辞事典類をまとめて検索可。
- ・同系統の辞事典類の比較も容易。
- ・テキスト本文があるので引用も可。
- ・動画コンテンツなどを併用し、
理解を深める工夫も
(ポブラディアネット)

2019/7/16

28

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2)オンラインデータベース

人物情報系・・・Who Plus, 人物レファレンス辞典など。

- ・収録年代、主題などによって
多巻に分かれるレファレンス
ブックと異なり、検索性に
優れている。

2019/7/16

29

オンラインデータベースの活用例(1)

(例) Japan Knowledge が活きる場合

→レファレンスサービスにおいて「言葉」の意味・ヨミ・活用例など
「解説」を求められたとき

- ・通常は対象となる主題(意味を調べる)に対応した情報源を選択し、
選択した全ての資料を検索語を用いて網羅的に調査する。

2019/7/16

30

オンラインデータベースの活用例(2)

しかし...言葉の辞典だけでもたくさん種類がある!

国語辞典, 漢和辞典, 古語辞典, 類語辞典, 新語辞典, 方言辞典, 隠語辞典...

→対象となる言葉が

- 新しい言葉であれば「**新語辞典**」
- 特定地域で使用される言葉なら「**方言辞典**」
- ある集団においてのみ用いる言葉なら「**隠語辞典**」

2019/7/16

31

オンラインデータベースの活用例(3)

Japan Knowledge を用いれば,

異なる種類の辞典, 複数の辞典を**統合的に検索**して結果を返してくれる。

2019/7/16

32

オンラインデータベースの活用例(4)

特に「**レファレンスサービス**」においては有効!

- ① 印刷資料のレファレンスブックよりも「**検索性**」が高く, 情報が定期的に「**更新されて**」いる
- ② 情報探索にかかる時間を**短縮**できるだけでなく, **複数情報源**による確認もできる
- ③ 百科事典などを用いて, 質問の**主題**をざっと確認したい時にも有効

2019/7/16

33

オンラインデータベースの活用例(5)

「**資料提供**」においても有効!

- ① 新聞記事系データベースのように記事索引としてだけでなく, そのまま一次情報(本文)を提供できる
- ② 「**JRS経営情報サービス**」のように書式集をはじめ, **ビジネス支援サービス**における情報として提供できる

2019/7/16

34

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料

デジタルアーカイブ・デジタルコレクションについて

2019/7/16

35

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (3) デジタルアーカイブ・デジタルコレクション

① 動向

- デジタルアーカイブは**地域資料**を中心に**図書館**で作成・公開するケースが増えつつある。
- デジタルコンテンツは「**国立国会図書館デジタルコンテンツ**」の利用が広まりつつある。

2019/7/16

36

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (3) デジタルアーカイブ・デジタルコレクション

②生産・流通・提供

- 公立図書館が**自館作成**ないし**外部発注**によって製作するケースが多い
- 対象資料は地域資料・特別コレクション等
- 自館のホームページ等を通じて公開

外部発注

- 予算確保の下、外部専門業者に制作・発注

自館作成

- 「緊急雇用対策」などの予算措置の下、自館内で作成
- 職員が自ら撮影、作成

2019/7/16 37

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (3) デジタルアーカイブ・デジタルコレクション

③意義

- 地域情報のデジタル化**
= 公立図書館の任務との親和性
- 貴重書・古典籍などの保存・利用促進**
= 原文を含めた資料保存
一般利用者に対する資料の利用促進

2019/7/16 38

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (3) デジタルアーカイブ・デジタルコレクション

④デジタルコレクション

「国立国会図書館デジタルコレクション」

- 図書、雑誌、古典籍から歴史的音源、電子書籍まで、**国内最大の情報量**を有するデジタルコレクション
- 「**図書館向けデジタル化資料送信サービス**」を活用することで対象資料・活用度が大幅にアップ

2019/7/16 39

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (3) デジタルアーカイブ・デジタルコレクション

「図書館向けデジタル化資料送信サービス」

- 絶版等を理由に入手困難な資料、約150万点が自館で閲覧・複写できる！
- 利用環境を整え、申請するだけ

2019/7/16 40

デジタルアーカイブの活用例

(例) 自治体外の利用者から地域資料の利用の希望が寄せられた。閲覧と複写を希望している。

(通常の対応)

- レファレンスサービスとして受付、利用者の希望する該当箇所を確認する。
- その上で複写範囲を指定して郵送でやり取りが発生する。

当該資料がデジタルアーカイブされていれば...

- 利用者自身が資料を確認し、閲覧・利用できる！

2019/7/16 41

デジタルコレクションの活用例

(例) 利用者から資料を求められたところ、県内に所蔵する図書館があるものの、相互貸借では利用者の使用したい期限に間に合わない。

- 「国立国会図書館デジタルコレクション」の図書館送信対象資料であれば、**その場で閲覧でき、提供可能。**

- 利用者に対する資料提供の**時間を短縮**できる！
- 国立国会図書館まで来館することが困難な**地方利用者**も情報にアクセス可能

2019/7/16 42

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料

オープンアクセス資料

2019/7/16

43

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (3)オープンアクセス資料

①「オープンアクセス」とその動向

- 学術情報は誰もが自由にアクセスし、活用できるべきという考えから、研究者・研究機関に広まった概念
- 世界中の多くの研究機関で「オープンアクセス化」が進んでいる
- 公共図書館で学術情報に対するニーズは多くないかもしれない...
→いざ求められた時に「オープンアクセス資料」があることで対応できることも

2019/7/16

44

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (3)オープンアクセス資料

②生産・流通・提供

- 大学・研究機関が所属研究者の研究成果を集約・公開し、ネットワーク上からアクセス可能にした(機関リポジトリ)
- 従来「灰色文献」であった紀要論文などもアクセスが容易に

2019/7/16

45

3. 電子資料の特性と動向 ネットワーク系資料 (2) デジタルアーカイブ・デジタルコレクション

③機関リポジトリ

研究機関自らによる公開

- 大学のウェブサイト、図書館システムを通じて提供

共用機関リポジトリを用いた公開

- 小規模大学等、自ら設置が困難な研究機関を中心に利用が進む
(例) JAIRO CLOUD

2019/7/16

46

オープンアクセス資料の活用例(1)

(例:レファレンス質問)「大学寮覚書」久木 幸男 著が読みたい。

- CiNii Articles で検索すると、『横浜国立大学教育紀要』18号 1978.11, pp. 102-118 に収録されていることが分かる。

CiNii Articlesに「機関リポジトリ」というリンクリゾルバがありクリックすると「横浜国立大学学術リポジトリ」の当該資料ページにジャンプし、pdfファイルで直接本文を閲覧できる。

2019/7/16

47

オープンアクセス資料の活用例(2)

リンクリゾルバ

“書誌データベースやOPACなどの検索結果から、利用者にとって最適な文献やサービスへのリンク先を決定する仲介システム。バン・デ・ゾンベルが提案したOpenURL構文によってメタデータを記述することで実現される。リンク先は、アグリゲータや出版社、所属機関内外の蔵書、図書館相互協定の依頼などである。検索手続きの簡素化、利用可能な学術情報の有効利用と入手時間の短縮の効果がある。”
(図書館情報学用語辞典 第4版)

2019/7/16

48

4. 電子書籍の特性と動向

電子書籍

2019/7/16

49

4. 電子書籍の特性と動向

① 動向

生産 (出版社が中心)

- 印刷資料が電子化されるもの、最初から電子資料として作成されるものがある

出版点数

- 総数 = 約92万点, 年間出版点数 = 5.5万点 (2015年末時点)
* 植村八潮「電子書籍の市場拡大と概念拡張」(情報の科学と技術 2017-01, Vol.69, No.1, pp.2-7)

2019/7/16

50

4. 電子書籍の特性と動向

電子出版の市場規模

- 2018年度推計 2479億円 (前年度比11.9%増)
- 参考: 印刷出版1兆2921億円

2018年 紙と電子の出版物推定販売金額

	2017年		2018年		占有率 (%)
	億円	前年比 (%)	億円	前年比 (%)	
書籍	7,152	97.0	6,991	97.7	45.4
雑誌	6,548	89.2	5,930	90.6	38.5
紙合計	13,701	93.1	12,921	94.3	83.9
電子コミック	1,711	117.2	1,985	114.8	12.8
電子書籍	290	112.4	321	110.7	2.1
電子雑誌	214	112.4	193	90.2	1.5
電子合計	2,215	116.0	2,479	111.9	16.1
紙+電子合計	15,916	95.8	15,400	96.8	100.0

(* 出版科学研究所調べ。出典・引用は「デジタル新文化」2019年1月31日 2面 2019/07/14最終確認)

2019/7/16

51

4. 電子書籍の特性と動向

② 流通



- 出版社から電子書籍取次を経由して販売サイトに届くケース、出版社から直接販売サイトに届くケース、出版社の直販など

2019/7/16

52

4. 電子書籍の特性と動向

民生向け電子書籍

- 電子書籍取次を通じて書店サイト等を通じて販売される
- 買い切り型、サブスクリプション型がある (特に雑誌に顕著: dマガジン, 楽天マガジンなど)
- 図書館においても共立女子大学図書館が「dマガジン for Biz」による提供を開始 (2018.12) 同時10台・180タイトル

図書館向け電子書籍

- 電子書籍取次などを經由して、電子書籍・電子図書館ベンダーから流通

2019/7/16

53

4. 電子書籍の特性と動向

③ 電子書籍市場の実態

- 「コミック」の割合が極めて大きい

『新文化』2019年1月31日版 出版科学研究所調査

- コミック, 紙版1,711億円・電子版1985億円で電子版が2年連続で紙版上回る

2019/7/16

54

4. 電子書籍の特性と動向

④ 出版社からみる電子書籍・・・「コミック以外」

・第102回 全国図書館大会 第8分科会におけるパネリスト発言(要旨)

“印刷書籍の方が電子書籍よりも出版コストが低い”
“電子書籍はOSのバージョンアップなどに対応するための維持コストがかかる”
“印刷書籍の売上で電子書籍をカバーする”

・J E P A「著作権に関するアンケート」

“電子化できない理由6割が「権利処理の手間」／「売上・コスト問題」も58%”
(デジタル新文化 2018年7月5日 3面)

2019/7/16

55

4. 電子書籍の特性と動向

⑤ 出版業界の懸念

・図書館において電子書籍を提供することに対する懸念

→文庫本の貸出猶予を求める発言(文芸春秋社長・2018.3.28)などに見られるように、図書館に置ける資料提供が出版社に与える影響を懸念する声は未だ存在(*『新文化』2018年4月5日 2面)

→公共図書館の94%が電子書籍を提供しているアメリカでも制約が「出版社による高価格設定」「貸出制限の設定」など
(*伊藤倫子「電子書籍貸出サービスの現状と課題」情報管理,2015, Vol.58, No.2 pp.28-39)

2019/7/16

56

4. 電子書籍の特性と動向

⑥ 図書館向けの制限・価格設定

① 日本電子図書館サービス

→2年間の提供期間、52回の貸出制限 価格は定価の1.5~2倍を推奨
(黒野英「図書館向け電子書籍がなかなか増えない理由」Internet Watch 2015.11.7
<https://internet.watch.impress.co.jp/docs/event/730931.html> [2018-7-15 access])

② 第102回 全国図書館大会 第8分科会におけるパネリスト発言(要旨)

→“ライブラリープライス、印刷書籍の2.7倍の価格”

2019/7/16

57

4. 電子書籍の特性と動向

⑦ 電子書籍ならではの利点

ネットワークを介した資料提供(返却)

- ・貸出サービスを行う場合、利用者はいつでもどこでも資料を利用
- ・特に図書館にアクセスが困難な遠方者、アウトリーチサービスを要する利用者に有効!

多様な表現

- ・プラットフォームが対応していれば、拡大・音声読み上げなども可能
- ・高齢者・弱視者・視覚障害者に対する資料提供として有効!

2019/7/16

58

4. 電子書籍の特性と動向(2)

電子書籍の提供 (電子図書館)

2019/7/16

59

4. 電子書籍の特性と動向(2) 電子図書館

① 提供館数

- ・サービスを実施しているのは**86自治体83館**(全国1724自治体)

*自治体数が多いのは合同で実施しているケースがあるため「鎌倉科学公園都市圏域定住自立圏電子図書館」
(出典「電子図書館(電子貸出サービス)実施図書館(2019年01月01日)」電子出版政策・流通協議会, 2019.2.14
https://eabu.or.jp/Electronic_library_introduction_record.html 最終確認2019/07/16)

- ・かつて実施していたが、提供を取りやめた図書館は**5館**

2019/7/16

60

4. 電子書籍の特性と動向(2) 電子図書館

①「図書館向け電子図書館・電子書籍サービス」ベンダー

- ・図書館流通センター
- ・日本電子図書館サービス
- ・メディアドゥ
- ・丸善雄松堂
- ・紀伊國屋書店 などがある

2019/7/16 61

4. 電子書籍の特性と動向(2) 電子図書館

ベンダー名	プラットフォーム名	コンテンツ数 (タイトル)	公共図書館 (自治体数)	備考
① 図書館流通センター	LibranE & TRC-DL	60,000 前年度比 14,000タイトル増	63	・2018年よりLibranEも提供
② 日本電子図書館サービス	LibranE	40,000 前年度比 15,000タイトル増	25	・学校18、大学23、企業1あり
③ メディアドゥ	OverDrive Japan	163,300 和書 33,000 (内・青空文庫11,000) 洋書130,300	12	・大学2、学校3
④ 丸善雄松堂	Maruzen eBook Library	60,000 前年度比 18,000タイトル増		・導入680館(学術機関向け)
⑤ 紀伊國屋書店	学術電子図書館KinoDen	12,000		・大学、企業、官公庁、公共図書館で実績あり(50館)。内訳は非公表

(※「電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告」2018 電子出版政策・流通協議会、2018.11) を元に発表者が作成

2019/7/16 62

4. 電子書籍の特性と動向(2) 電子図書館

②費用

ベンダー名	プラットフォーム名	料金モデル	初期導入費	維持費	備考
① 図書館流通センター	LibranE & TRC-DL	公共図書館向け図書館システム非連携版	70万円～	月額5万円～ (自治体規模によって異なる)	・利用可能台数上限なし ・専用電子書籍はコピー・印刷不可
② 日本電子図書館サービス	LibranE	①ワンコピー・ワンユーザ(基本) ②複数課金 ③ワンコピー・マルチユーザ	不明	不明	・クラウド型電子図書館サービス ・Webブラウザだけで読書可
③ メディアドゥ	OverDrive Japan	公共図書館向け	75～150万円	月額3～8万円	・コンテンツ購入費 非課税(～50万円) ・ライセンス同時利用1人
④ 丸善雄松堂	Maruzen eBook Library		無し	無し	・1点から買い切り契約可能 ・同時アクセス)又はあり ・IPアドレスの制限あり ・購入タイトルのMARC提供
⑤ 紀伊國屋書店	学術電子図書館KinoDen	①コンテンツ単品完全買切り ②サブスクリプション型(導入予定)	不明 (プラットフォーム利用料は無し)	無し	・契約機関内・利用者限定 ・リモートアクセス可 ・本文同時オンラインアクセス制限方式(同時アクセス1～3)

2019/7/16 (※「電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告」2018 電子出版政策・流通協議会、2018.11) を元に発表者が作成 63

4. 電子書籍の特性と動向(3) 電子書籍の活用

③活用のメリット

特に**奉仕面積の広い**都道府県・政令市立図書館において効果大

- ・図書館までの**アクセス時間**がかかる利用者も利用しやすい
- ・レファレンスブックなど通読を目的としない**調査型資料**は、調査目的の利用者や図書館間相互協力において有益

2019/7/16 64

5. 電子資料の活用

電子資料を図書館で活用するために

2019/7/16 65

5. 電子資料を活用するために

(1)全体のポイント ①前提

①前提

- ・使う・使われるから「電子資料」が必要になる
- ・必要だから「収集(使用契約)」される

必要性を示すために
既にある電子資料の「**利用記録**」をとろう!

2019/7/16 66

5. 電子資料を図書館で活用するために
(1)全体のポイント

計画的に

- 電子資料を提供する「目的」、図書館サービス計画の中での位置づけを明確にする。
- 収集方針等との整合性をつける。

事前準備

- 予算獲得
- 見積・発注・契約
- 環境整備・運用準備

2019/7/16 67

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA ①Plan (計画)

「図書館経営の視点から計画を立てる」

- 現状を把握、電子資料の情報ニーズがどこにあるのか・ニーズの潜在可能性はどこにあるのかを測る
- 電子資料を提供する「目的」を明確に

図書館サービス計画との整合性を取り、
明確な目的をもってサービスの実施を検討する

2019/7/16 68

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA ①Plan (計画)

「収集方針・選書基準・運用基準」の策定

- メディアごとの資料**収集(契約)方針**と**運用方針**を定める。
- 特にオンラインデータベース、電子書籍など「アクセス権提供型」のサービスに当たっては**明確な基準**を定める。
- 契約したデータベースの種類の「**見直し基準**」も設けておく。

2019/7/16 69

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA ①Plan (計画)

「スケジュール」の策定・遂行

- 事業化**
予算のフレームワークの確保(「電子資料サービス計画」の承認)
- 予算化**
「電子資料サービス計画」を実施するための具体的な予算の獲得
- 進行管理**
準備期間・サービス開始期間の設定

実施には**エビデンス**が必要

2019/7/16 70

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA 計画 ②予算の確保

予算化における留意点

パッケージ系

- 需要費(消耗品費)、備品購入費で対応(図書館資料費で対応可)

ネットワーク系

- 電子図書館、データベースは「使用料及び賃借料」となるケースも
- 買切型サービスの場合、費目が異なる可能性も

費目が違えば支出ができない
既存の予算枠の中で支出できない場合、新規事業として**予算獲得**が必要

2019/7/16 71

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA 計画 ③選定・契約の留意点

「選定」・「契約」の留意点

「オンラインデータベース」

- 独占的供給のため価格交渉の余地は少ないが、ベンダー・代理店との相見積もり・価格交渉は試す

「電子書籍」

- 事業化し予算獲得した後に、複数の観点から選定
- 電子図書館システムの導入を兼ねるケースも多く、**総合評価調達**など、価格だけでなく**技術・内容・サポート**も考慮して選択する必要がある

2019/7/16 72

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA 計画 ③選定・契約の留意点

「電子図書館(電子書籍提供)システム」選定の留意点

「独立型」か「システム統合型」か?

- **独立型**
電子書籍のみ別システムとなる煩雑さがある反面、システム変更など柔軟に対応できる。
- **システム統合型**
図書館資料との一体化運用が可能となる反面、電子書籍提供システムの変更が難しい。

2019/7/16 73

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA 計画 ③選定・契約の留意点

「電子図書館(電子書籍提供)システム」選定の留意点

「ディスカバリーサービス」の検討

情報の「発見」「入手」を意識した、書誌・目録・電子書籍等を**統合的に横断検索**するシステム

- 利用者の情報入手性を考慮したシステム選定を

2019/7/16 74

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA 計画 ③留意点

「DDA」(Demand Driven Acquisition)の検討

“未購入(未契約)の電子書籍を利用者に利用してもらい、その**利用がある一定の条件(トリガー・ポイント)に達した段階で図書館がそれを購入する仕組み**”
(*『電子書籍と電子ジャーナル』勉誠出版)

- 収集方針に関わるので運用に当たっては事前に方針を定めること

2019/7/16 75

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA 計画 ④環境整備・事前準備

コンテンツに係る設備の配置

- 必要な機材・設備(端末・書架)・資料、消耗品の準備

利用者への提供マニュアルの整備

- 提供方法を決定し、サービス手続きを整える

職員研修

- 職員が精通していなければ利用は伸びない
→職員による**情報源理解**

2019/7/16 76

5. 電子資料を図書館で活用するために
(2)PDCA 計画 ⑤利用案内・広報

利用者への周知

- 広報やホームページへの掲載、館内掲示なども必要だが・・・

日ごろの図書館サービスにおいて、**電子資料を積極的に活用し、利用者に提供していくのが最大の広報**

2019/7/16 77

5. 電子資料を図書館で活用するために
(3)PDCA Do ①サービスの実施

利用する・提供する

- **レファレンスサービス**での活用
- 職員が用いる→回答につながる
「利用者に対する情報提供を通じて**利便性・有効性**が伝わる」
- **レファレンス情報源**としての紹介
「利用者に情報源として積極的に紹介・使い方の案内を行う」

2019/7/16 78

5. 電子資料を図書館で活用するために
(3)PDCA Do ②運用

運用方法を常にチェックする

利用方法の見直し

- 「利用者が利用しやすい手続き方法」を整える

利用環境の見直し

- 「閲覧のための端末の貸出」「利用者自身の端末からの利用」など要望に応じて対応可能か事前に確認、段階的に開放することも

2019/7/16 79

5. 電子資料を図書館で活用するために
(3)PDCA 評価 ①評価の必要性

利用記録・ログの取得

- 利用記録、ログは定量的評価・質的評価の第一歩

情報源の評価

- 利用記録をつけ、ログを参照することで「どの情報源が用いられているのか」「どんな使い方をされているか」を把握する= **必要性をチェック**

サービスの評価

サービス実績が新たなサービス展開を生み出す **(正の連鎖反応)**
→「情報源の増加」「接続台数や提供方法の拡大」につながる

2019/7/16 80

5. 電子資料を図書館で活用するために
(3)PDCA 評価 ②「利用記録」

利用記録の付け方

- ログが取得できない情報源は**手作業**で記録
(パッケージ系電子資料、ログ取得機能がないネットワーク情報源)

資料(情報源)ごとに統計を記録する

- 「日計表の作成し、月ごとの統計に反映させる」

(対象)
CD/DVD-ROM, 自館デジタルコンテンツ, NDLデジタル送信化サービス, れきおん(歴史的音源), オープンアクセス資料の利用

2019/7/16 81

5. 電子資料を図書館で活用するために
(3)PDCA 評価 ③「ログ」の取得と分析

ログ取得機能の活用

- ネットワーク系の情報資源はログの取得が可能なものが多い
→この際、「個人情報」と結びつける**必要はない**
- ログイン数、アクセス回数、検索語、アクセス先(閲覧ページ)など、情報源別に「**利用頻度**」「**需要**」を明らかにできる。

(※注:情報源によって取得できる情報は異なる)

2019/7/16 82

5. 電子資料を図書館で活用するために
(3)PDCA 評価 ③「ログ」の取得と分析

ログの取得方法

オンラインデータベース・電子図書館(電子書籍提供)システム

- 提供者(ベンダー)が**機能**として付与していたり、依頼することで**提供**したりするケースが多い

デジタルアーカイブ(自館作成のもの)

- 「アクセスカウンター」を付けるなど工夫を
- システム構築時にログ管理システムを**仕様**に含める

2019/7/16 83

5. 電子資料を図書館で活用するために
(4)PDCA 改善

Action(サービス計画の見直し・改善)

提供する情報資源の見直し・増加

- 情報源そのものの「**ニーズが不在**」なのか、「**活用しきれていないのか**」によって判断は異なる= **統計**を活用しながら分析・検討を

サービス展開・運用方法の見直し

- 「利用・活用の多いサービス」は提供環境の改善を
- 「需要がないサービス」は原因を点検し、今後の判断を

2019/7/16 84

おわりに

- **電子資料の利便性**から、印刷資料を補う形で今後も活用されていく。
- 常に**需要の喚起**を「職員」「利用者」双方に利点がある。使うことでさらなる需要を。
- **計画的なサービスの実施**を「とりあえずやっておけばいい」ではなく、目的を持って計画的に電子資料を活用しよう。

2019/7/16

85

参考文献

(図書)

1. 電子図書館・電子書籍貸出サービス.調査報告2018/緒村八潮,野口武雄編著;電子出版制作・流通協議会著.ポット出版,2018.11.
2. 電子書籍と電子ジャーナル/日本図書館情報学会研究委員会編.勉誠出版,2014.11.
3. 図書館情報学用語辞典/日本図書館情報学会用語委員会編.第4版.丸善,2013.12.

(雑誌記事)

1. マルウ 俊江.カリフォルニア大学における日本語電子書籍ODAの取組み-2014年から2017年までの経過報告.情報の科学と技術,2018.1,vol.68,no.1,p.31-37.
2. 高木利弘.電子出版の定義の再考-『電子書籍ビジネス調査報告書2017』を分析する.出版ニュース,2017.10,no.2460,p.10-13.
3. 塚山正光.電子書籍と図書館:日本の現状と課題(特集 図書館向け電子書籍のいま).専門図書館2017.3,no.282,p.2-8.
4. 緒村八潮.電子書籍の市場拡大と概念拡張.情報の科学と技術,2017.1,vol.67,no.1,p.2-7.
5. 稲木竜.慶應義塾大学における電子書籍の取り組み-ディスカバーサービスの活用事例-.情報の科学と技術,2017.1,vol.67,no.1,p.14-18.
6. グッド 長徳広行,グッド 和代.米田大学図書館における電子書籍サービス.情報の科学と技術,2017.1,vol.67,no.1,p.19-24.
7. 池内洋.公共図書館における電子書籍サービス.情報の科学と技術,2017.1,vol.67,no.1,p.25-29.
8. 地方自治相談室.電子書籍購入の支出科目について.地方自治,2016.7,no.824,p.118-120.
9. 伊藤倫子.電子書籍貸出サービスの現状と課題:米田公共図書館の経験から.情報管理,2015.4,vol.58,no.1,pp.17-39.

2019/7/16

86

参考文献

(新聞記事)

1. J E P A 「著作権に関するアンケート」/電子化できない理由6割が「権利処理の手間」/「売上・コスト問題」も58%.デジタル新文化,2018.7.5,pp.3.
2. 文庫貸出「2、3カ月貸予を」/文藝春秋・松井社長、図書館へ再度提言.デジタル新文化,2018.4.5,pp.2.
3. 2018年出版物推定販売金額、紙+電子1兆5400億円前年比3.2%減/電子市場、好調247.9億円11.9%増.デジタル新文化,2019.1.31,pp.2.

2019/7/16

87